

INFORMATION

卒業生向けの証明書発行について

● 各証明書の種類と手数料

種 類	手数料	備 考
卒業証明書(和文)	200円	
成績証明書(和文)	200円	
大学院修了証明書(和文)	200円	
学位授与証明書	200円	大学院後期課程修了者が対象 発行に1～2週間程度要します。 ※申請の際には「学位授与証明書交付願」が、別途必要となります。 ホームページより「学位授与証明書交付願」フォーマットをダウンロードをしてご利用ください。
単位修得証明書(電験・危険物等)	200円	発行依頼の際には、資格名を明記してください。 種類により発行には2週間程度必要となることがありますので、 郵送での申請手続きをお勧めします。
建築士試験 指定科目修得単位・卒業証明書	200円	
卒業証明書(英文)	600円	英文各種証明書の発行には2週間程度必要となることがありますので、 郵送での申請手続きをお勧めします。
成績証明書(英文)	600円	
大学院修了証明書(英文)	600円	
学力に関する証明書	1,000円	証明書を申請される前に、教務課までお問い合わせください。

※上表以外の証明書の発行が必要な場合は事前に教務課までお問い合わせください。 ※厳封を希望する場合は、申請書に明記してください。

「個人情報保護法」の全面施行に伴い各種証明書の発行に際し、本人確認のため身分証明書(運転免許証、健康保険証、パスポート等)の提示や委任状の提出等をお願いしております。

● 郵送による手続き

次の4点の必要書類を同封の上、下記の宛先へ郵送してください。

必要書類	注意事項
1.申請書	ホームページより「証明書交付願」フォーマットをダウンロードしてご利用ください。
2.申請者を証明できるもののコピー	運転免許証、健康保険証、パスポート等のコピー
3.証明書手数料分の定額小為替証書	郵便局で発行 切手では申請できません。
4.返信用封筒	あて先を明記し、 返信用切手を貼付してください。

送付先 〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1
日本大学生産工学部 教務課 宛

※証明書は、申請書類到着後、一両日中に発行し返信用封筒にてお送りいたします。
ただし、郵便事情等もありますので1週間程度の余裕をもって申請してください。

● 窓口での申請手続き

教務課窓口前の証明書自動発行機で申請書を発行し、必要事項を記入の上窓口申請してください。

設置場所	津田沼キャンパス 1号館 (事務棟) 2階 教務課
利用時間	月～金曜日 9:00～18:00 土曜日 9:00～13:00 日曜祝日 利用不可

※上記の取扱時間は、行事等で変更または休止になる場合がありますので、
事前にホームページにてご確認ください。

日本大学生産工学部の
ホームページからもご案内しています。
詳細は、ホームページで確認してください。
<https://www.cit.nihon-u.ac.jp/>
電話・FAX・WEB上での申請手続きは行っておりません。



※代理人が申請する場合は、委任状や別途代理人の方の身分証が必要となります。
詳細はホームページで確認してください。



日本大学生産工学部【スプリング】2023 3月号

学部長メッセージ Message FROM THE DEAN

“これからの国際社会を生き抜くためには、
日本大学生産工学部での貴重な体験を生かしながら、
自らがじっくりと考えて
激変する時代の大波を乗り越えてください。



〔日本大学生産工学部 学部長〕

澤野利章 Toshiaki Sawano

令和4年度、学部卒業生ならびに大学院
修士生の皆さん、卒業・修了、誠におめで
とうございます。ご家族のお慶びもひとしおの
ことと心よりお慶び申し上げます。

日本大学生産工学部は2022年度に創設
70周年を迎えました。今年度の卒業生・修
了生の皆さんは、記念すべき創設70周年の
年度に母校を巣立つこととなります。皆さん
の学生生活はいかがでしたでしょうか。4年
前の4月、生産工学部に入学し、5月には元
号が「平成」から「令和」に改まり、新たな気
持ちで期待と希望に胸をふくらませて学生
生活が始まったことと思います。しかし、よ
うやく学生生活に慣れて、大学生としての生
活を実感し始めた1年生が終わるころ、突如
として新型コロナウイルス感染症が拡大し
始め、4年間の学生生活の半分以上がこの
感染症に翻弄されてしまいました。これによ
り、皆さんも大学もこれまでにほとんど経
験のなかったオンライン授業が始まりました。
通信環境や新しい学習支援システムの
導入や変更など、大学全体にわたり色々な
ことに挑戦してきました。しかし、このよう
な急激な学習環境の変化にもかかわらず、
皆さんの高い適応力と柔軟性により、大混
乱に陥ることなく約2年間にわたるオンライ
ン授業を乗り切ることができたことは胸を
張ってよいことだと思います。

良し悪しは別として、4年間の学生生活
の中で今までの大学生が経験したことのない
ような多くの経験ができたと思います。
緊急事態宣言の発令、外出の自粛、時差通
勤、リモートワーク、オンライン授業などの
経験は希望してもなかなか経験できるもの
ではありません。将来、皆さんが友人や家族
に大学生活を振り返り思い出を語る時には、
大きな話題のひとつになることでしょう。こ
れらの経験を十分に活かしつつ、さらには
今後の強みとして成長し活躍されることを
期待しております。

日本で唯一の「生産工学部」 「生産工学研究科」

皆さんは、生産工学部にしかない科目とし
て、生産実習をはじめ技術者倫理、経営管

理など、独自のカリキュラムにより「経営が
わかる技術者」として卒業・修了されます。
また「経験」を重視した実学である実験や実
習・演習などの多くの実技科目を学びまし
た。これらの科目は少人数のグループでの
課題解決に取り組み、皆さんは学生間や教
員とのコミュニケーションを通じて、専門知
識に加えて社会人としての基礎力も養われ
たことと思います。さらにこの経験を通し
て、今後も継続的に身に付けていかなけれ
ばならない「知識」についても改めて認識で
きたのではないのでしょうか。したがって皆さん
は卒業生・修了生として「経営がわかる技
術者」の要素が身に付いていることを意識し
て、日本で唯一の生産工学部・生産工学研
究科で学んだことに自信と誇りを持ち、新し
い活躍の場所においても自分の道を切り拓
いてください。生産工学部・生産工学研究科
も皆さんと同じように次の80周年、100周
年に向けて、新たな教育・研究の道を切り拓
き躍進してまいりたいと思います。

皆さんが活躍する変化の多い社会 激動する国際社会

2022年には世界中で大きな出来事があ
りました。コロナ感染症の問題はもちろんの
こと、ロシアのウクライナ侵攻の問題、大幅
な円安問題、国内の政治においては政治と
宗教の関係に対する問題などです。世界で
は継続的な問題として、カーボンニュート
ラルや持続可能な世界SDGsは、ほぼ全人類
にわたり浸透したのではないのでしょうか。ま
たビッグデータと人工知能の研究・開発や
検証もめまぐるしく成長しており、新たな市
場がつつぎに出現しています。例えば具
体的な問題としてエネルギーの安定供給と
気候変動対策の両方の解決を迫られたと
き、多様な価値観が共存する社会において
どのように実現するかは社会において大き
な課題でもあります。複雑化しているのは
技術だけではなく、ダイバーシティー
に代表されるような多種多様な人が、互い
の考え方の違いや個性を受け入れながら、
共存共栄する社会が求められます。

本学を卒業・修了する皆さんは、どのよう
な社会環境下においても責任ある行動をと

ることができる技術者としての素養が備
わっております。さまざまな目標に挑戦する
ことを期待しております。

日本大学のスケールメリット

卒業・修了後は、日本大学の巨大なスケ
ールメリットを大いに活用してください。
日本大学には130有余年の伝統と歴史、
ほかには類を見ない約120万人の校友、そ
して生産工学部にも70年の長い歴史と約
92,000人の校友がいます。また、毎年16
学部87学科から様々な分野を学んだ多くの
後輩が続々と卒業します。皆さんはここで日
本大学を卒業し、新しく校友の仲間入りをし
ます。このスケールメリットを十分活用して、
社会に貢献されることを希望します。そし
て、皆さんに続く後輩に対しましては社会
人・校友の仲間として歓迎してあげてくださ
い。宜しく願いいたします。

日本大学の卒業生・修了生としての大きな
自信と誇りを持ち続け、日本さらには世界
中へ大きく羽ばたき、元気に活躍されること
を心より祈念して「卒業生・修了生に贈る
メッセージ」といたします。
卒業そして修了おめでとうございます。

CONTENTS

- 02 | 学部長メッセージ
- 04 | 創設70周年企画
- 06 | 4年間で心に残ったこと・
熱中したこと
- 12 | 学生の活躍
- 17 | 卒業生に贈るお祝いの言葉
- 18 | 学科・系ニュース
- 23 | Information

TOPIC

01

ロゴの制作

我が国唯一の『生産工学部』創設70周年を機に新たなロゴマークをつくりました。日大ブランドを頭文字に略称はNIT(エヌ・アイ・ティ)。

創設100周年に向けたベクトルの標語として70年の歴史と求める教育理念からExperience & Liberal Artsとしてデザインしました。



大久保商店街に70周年記念旗を掲げ、70周年を盛り上げました。

TOPIC

02

創設70周年記念誌の発刊

創設から現在までの足跡を記録にとどめるため、多くの方々の協力のもと関係資料の収集、編集を行い、創設70周年記念誌を発刊いたしました。

以下のQRコードから記念誌(デジタルブック版)をご確認いただけますので、是非ご覧ください。記念誌発刊を機に、改めて過去から現在そして未来へと生産工学部の絆を繋ぎ、卒業生の皆様や地域の皆様とともに社会の発展にいささかなりとも寄与して参りたいと考えております。また、「NIT(日本大学生産工学部)は卒業後も忘れられない大学でありたい」という思いから、記念品に紛失や忘れ物防止に役立つ『Air Tag』を選定し、記念誌と共に本学部関係者に配付いたしました。



NIT

NIT Nihon University Industrial Technology

NIT Nihon University Industrial Technology 70th

Nihon University Industrial Technology 70th

NIT Experience & Liberal Arts

発表します

~ 70th Anniversary ~

創設70周年企画

日本大学生産工学部では創設70周年を記念して3つの事業を行いました。

Nihon University Industrial Technology 70th

TOPIC

03

創設70周年記念講演会の開催

日本大学生産工学部では、2012年に開催された60周年記念シンポジウムに前後して、70周年に向けた大学改革をスタートさせました。生産工学部の創設趣旨に立ち返りながら学部のミッションやバリューに関わる方向性を検討し、生産工学部らしさとして「エクスペリエンスとリベラルアーツ」を掲げるに至りました。そこで、『自由になるための技術 リベラルアーツ』(講談社)をはじめとする著書のある山口周先生をお招きし「なぜイノベーションにはリベラルアーツが必要なのか?」という講演テーマにて、この先の80周年に向け、本学部がめざすべきベクトルについての示唆に富んだ講演会を2022年11月5日に開催いたしました。

日本大学生産工学部

創設70周年記念講演会

なぜイノベーションにリベラルアーツを学ぶのか?



Abstract:

2016年に米国でベストセラーとなったビジネス書「ファジー&デッキー」において、著者のスコット・ハートレーは「テクノロジーだけ優れていてモノペーションは起こせない。これから求められるのはリベラルアーツとテクノロジーを高い水準で両方持つ組織と個人だ」と指摘している。なぜイノベーションにリベラルアーツが求められるのか?本講演では、現在の世界におけるリベラルアーツの位置付けから始め、なぜリーダーにリベラルアーツが求められるのか?どのようにしてリベラルアーツを学ぶのか?についてお話ししたい。

講演者
山口周 さん

令和4年 土曜日
11月5日 13:00~14:30

参加料: 無料

形式 対面及びオンライン形式(ZOOM)

申込方法 事前に「申し込みフォーム」より、お申込みいただく必要があります。詳細はポータルサイトをご確認ください。

主催 生産工学部創設70周年記念事業推進委員会

問合せ先 日本大学生産工学部庶務課
TEL: 047-474-2202
E-mail: citinfo.shomu@nihon-u.ac.jp

NIT Nihon University Industrial Technology 70th

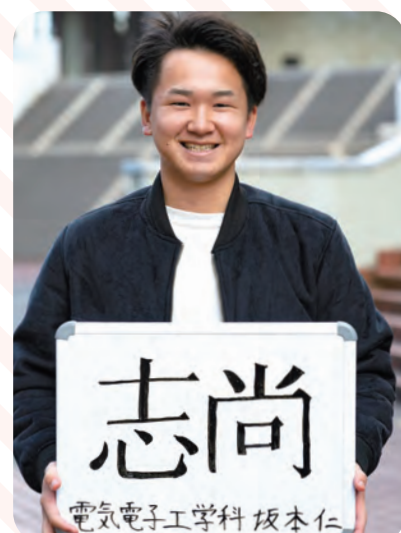
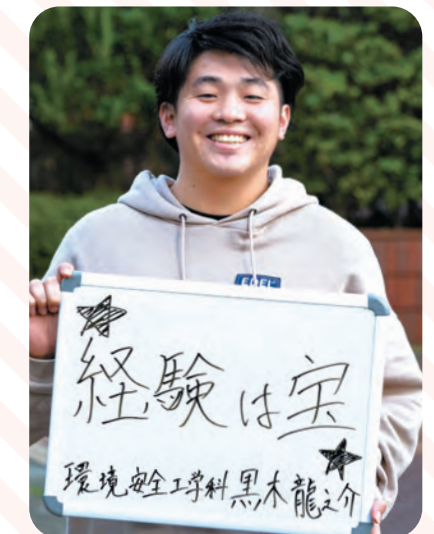
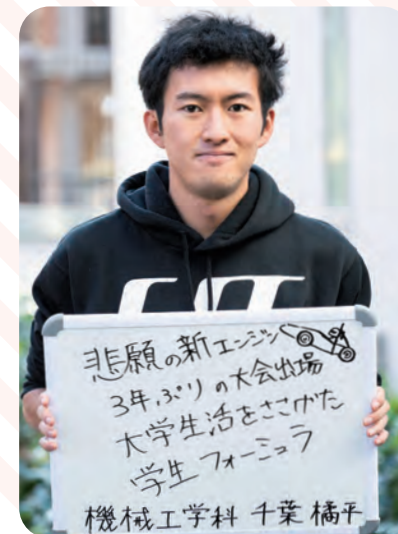
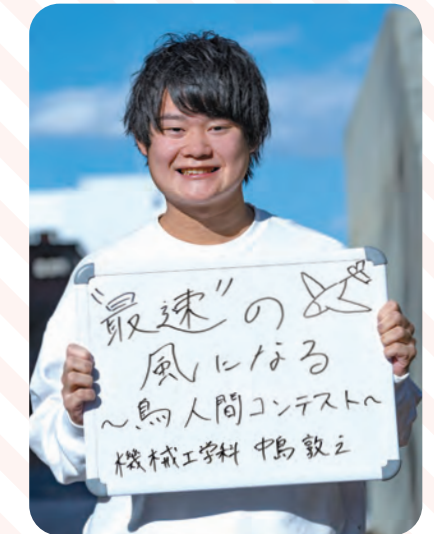
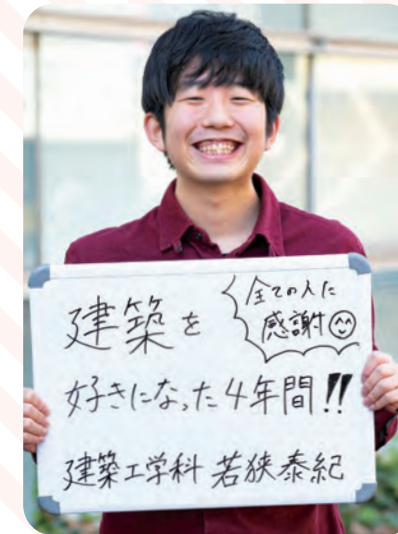
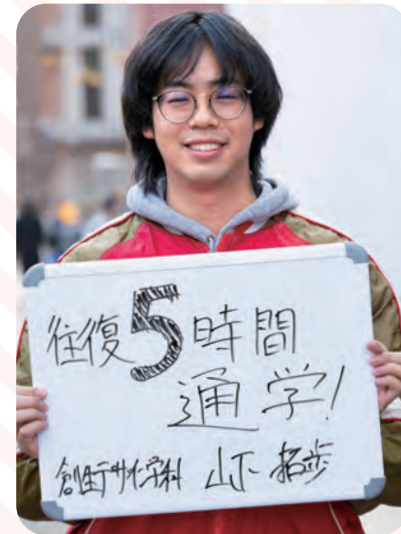
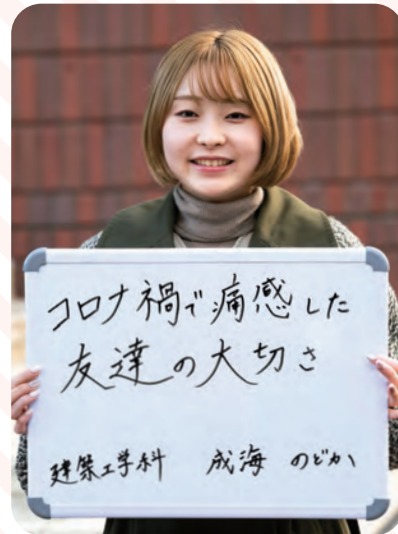
講演会ポスター

卒業生に聞きました！



4年間で心に残ったこと・熱中したこと

つらいことも楽しいことも盛りだくさんの大学生活は、かけがえのない財産。
今回は、今年卒業を迎える4年生に、在学中で心に残ったことや熱中したことを聞いてみました。

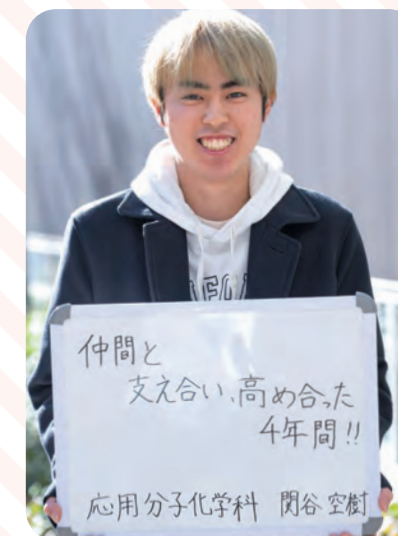
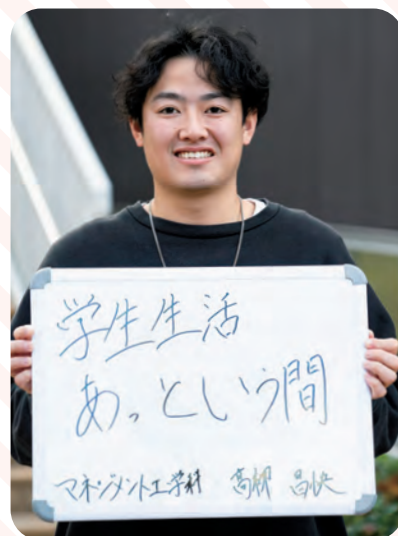
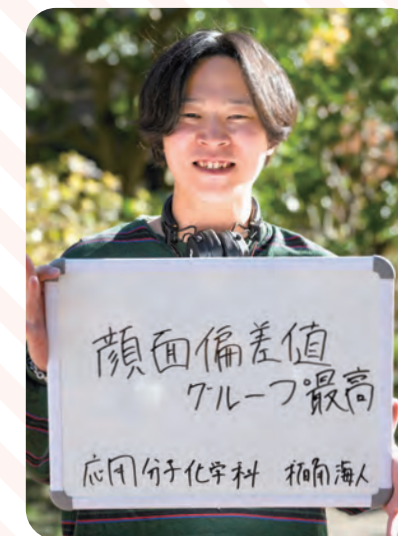


卒業生に聞きました！

それぞれの
思い出がたくさん！



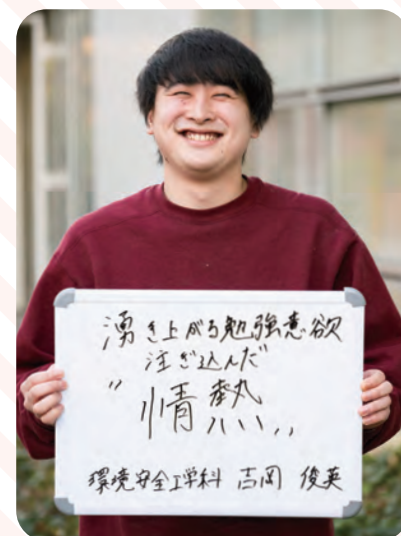
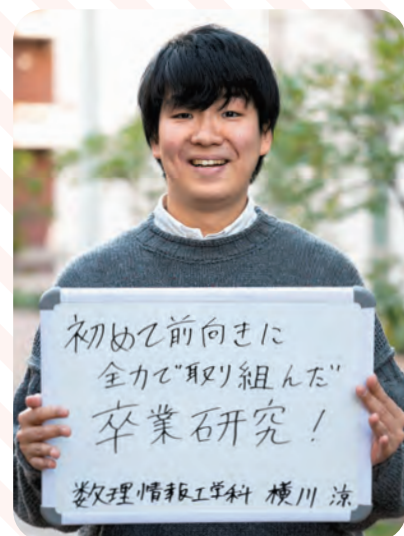
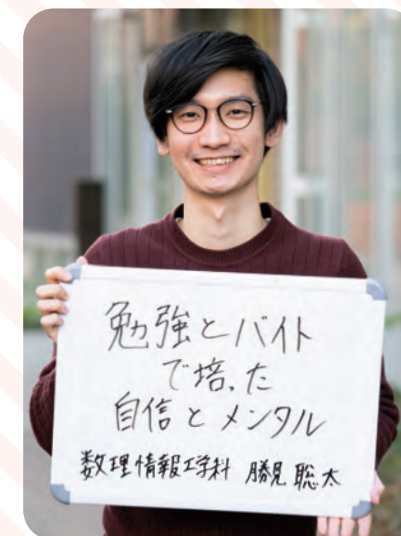
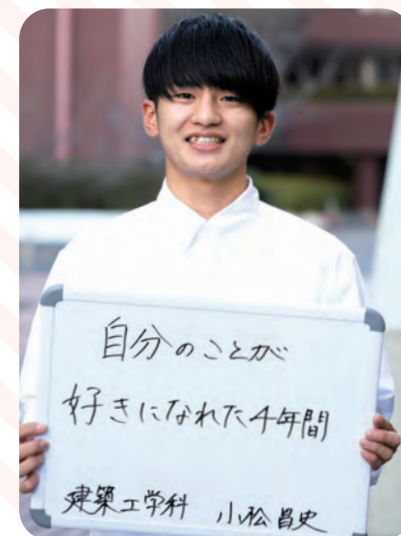
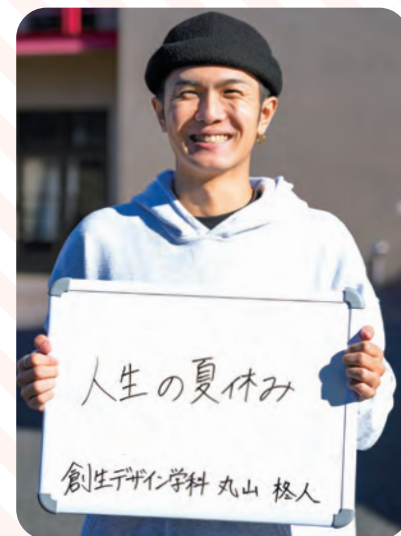
4年間で心に残ったこと・熱中したこと



卒業生に聞きました！



4年間で心に残ったこと・熱中したこと





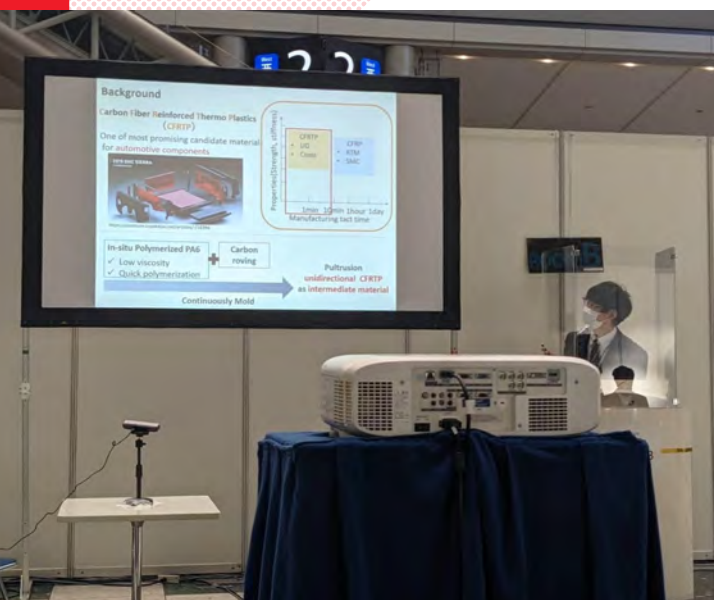
学生の活躍

【創生デザイン学科】
山下 拓歩
Takuho Yamashita

試行錯誤しながら創造する楽しさ

【機械工学専攻】
山科 拓海 Takumi Yamashina

私は大学で生産工学部のプログラムにてセント州立大学へ長期留学し語学勉強に注力しました。大学院では炭素繊維強化熱可塑性プラスチック(CFRTP)の研究を行っており、不純物を大幅に除去し、強度を1.5倍向上させました。この成果と留学で得た経験を活かし、国際シンポジウム(JISSE-17)にてstudent awardを受賞しました。



賞の受賞、論文掲載、部活動での入賞など、学生たちは数々の課外活動で、目覚ましい活躍を遂げています。ここではそんな学生たちの主な実績を紹介していきます。

薄膜材料デバイス研究会の ランプセッション発表

【電気電子工学専攻】
玉井 隆一 Ryuichi Tamai

世界初、ホットワイヤ法を用いた酸素化でトランジスタの信頼性向上をすることができ、Cat-CVD研究会、応用物理学会の発表を通して薄膜材料デバイス研究会のランプセッションで発表する機会を頂きました。私は研究を通してトランジスタの奥深さを実感しました。しかし、私にとって清水教授の熱心なご指導の下で研究できたことが何よりも大きな経験になりました。



逆風から得た絆で高く飛ぶ ～鳥人間コンテスト

【機械工学科】
中島 敦之 Atsushi Nakajima

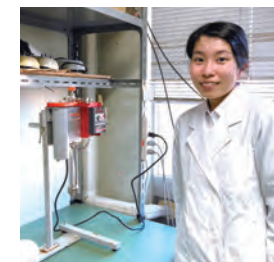
コロナ禍で仲間との作業もままならない日々が「なんとかしても飛行機を飛ばしたい!」というチームの思いを強くさせ、多くの困難を越える原動力となりました。結果は3位でしたが、仲間と設計製作した機体のコックピットから私が見た透き通った大空、仲間が見た私のフライトは、チームにとって価値あるものになりました。



日本海水学会 優秀発表賞を受賞

【応用分子化学専攻】
松田 ゆずは Yuzuha Matsuda

オンラインで開催された日本海水学会第73年会において、応用分子化学専攻の松田ゆずはさんが、「産業廃棄物中のCaを活用したCO₂有効利用法の開発-気-液界面反応場を用いたコンクリート粉末抽出液からのCaCO₃の製造-」という演題で発表し、優秀賞を受賞しました。



土木工学専攻の鈴木藍さんが 環境システム制御学会より奨励賞を受賞

【土木工学専攻】
鈴木 藍 Ai Suzuki

令和4年12月に開催された環境システム計測制御学会研究発表会において、土木工学専攻の鈴木 藍さんが「ディスポーザー排水流入時の管路内浄化に関する研究」の成果を発表し、奨励賞を受賞しました。この研究では、ごみ行政サービスの改善を背景に、下水道管内における生ごみの分解速度を模型実験や現地調査から推定し、ディスポーザーによる生ごみ処理が地域全体の温室効果ガス削減に寄与することを明らかにしています。



車づくりで得た仲間との最高の経験 ～学生フォーミュラ

【電気電子工学科】
黒澤 拓大 Takuto Kurosawa

私は自動車技術会が主催する学生フォーミュラ日本大会に出場しました。目標の全種目完走は達成できませんでしたがチーム初のエンジンの電子制御化(EI)を達成しチームとして大きく前進できました。様々な失敗を通してものづくりの難しさを痛感しましたが、フォーミュラカーを製作することで技術的なスキルを学べました。チームで創りあげた車両が走っていた姿には感無量で、最高の経験ができました。

学生の活躍

Activities of Students

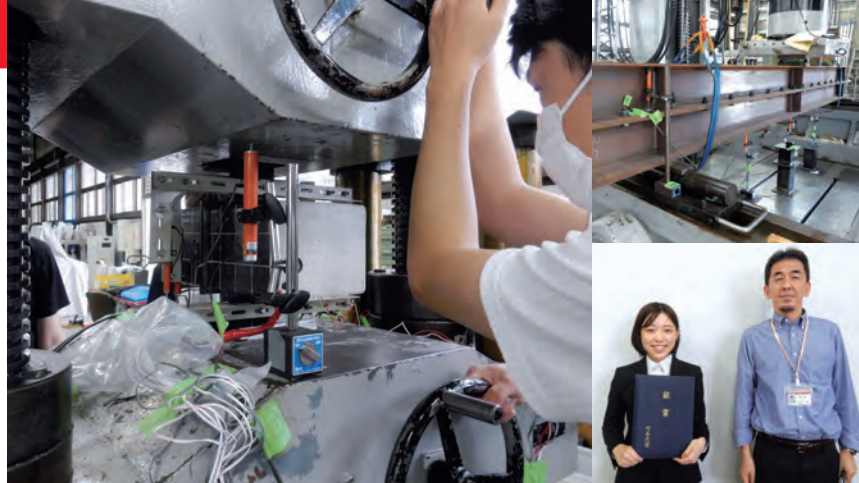
日本建築学会技術報告集(査読付)に論文掲載

【建築工学専攻】
大石 琴 Koto Oishi

「軸力と曲げを受ける矩形CFT柱の終局耐力式に関する一考察」が日本建築学会の査読付き学会誌、日本建築学会技術者報告集第28巻第68号(令和4年2月)に掲載されました。研究室では、実験を行ったり、論文投稿したりと、周りの方々に助けられながら楽しく充実した日々を過ごしています。

掲載ホームページ

https://www.jstage.jst.go.jp/article/aijt/28/68/28_215/_article/-char/ja/



長谷工住まいのデザインコンペティション優秀賞受賞

「渡る親子は育場借(いくばかり)」(作品タイトル)

【建築工学科】
相原 健都 Kento Aihara 牛尾 晃子 Akiko Ushio
長田 岳大 Takahiro Osada 菊田 康平 Kouhei Kikuta
鈴木 駿介 Syunsuke Suzuki

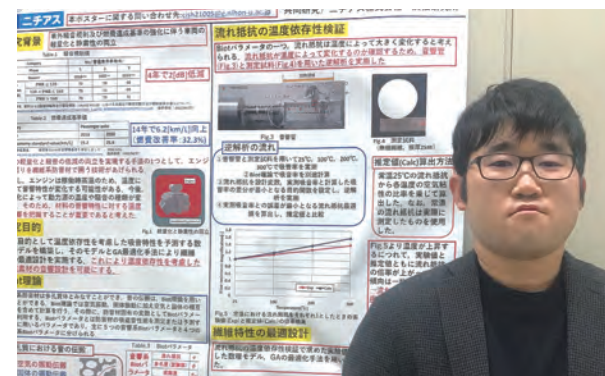
【建築工学専攻】
井上 了太 Ryota Inoue

「狩猟採集の集合住宅」というテーマに対して、集合住宅内に対象年齢の異なる部屋を配置し、子どもの成長に合わせて引っ越し出来るという育児に特化した提案をしました。
結果は優秀賞でしたが、初めてのコンペに挑戦しなんとか形にしたことや、審査員や入賞者の方々ともお話が出来たことは良い経験になりました。

グループ 相原健都、牛尾晃子、長田岳大、
菊田康平、鈴木駿介、
井上了太(日本大学大学院)

掲載ホームページ

<https://shinkenichiku.net/haseko/2021/result.html>



自動車技術会2022年度春季全国大会でパネル発表

【数理情報工学専攻】
佐々木 俊輔 Syunsuke Sasaki

数理情報工学専攻2年 見坐地研究室所属の佐々木俊輔さんは、2022年5月26日にパシフィコ横浜で開催された自動車技術会2022年度春季全国大会の学生ポスターセッションにおいて「繊維系防音材の温度依存性を考慮した繊維特性の最適設計に関する研究」というタイトルで発表しました。本研究内容は今後の電気自動車の静粛性向上につながる内容です。

電子情報通信学会 LOISグッドプレゼンテーション賞を受賞

【マネジメント工学専攻】
任 任 Ren Ren

令和4年9月に開催された国際会議The International Conference on Engineering and Information Technology for Sustainable Industry 2022 (ICONETSI 2022)で、任任さん(マネジメント工学専攻・博士前期課程修了)が生産管理部門で「論文生産性」について発表し、Best Paper Award(最優秀論文賞)を受賞しました。この国際会議は持続可能な産業と社会を育成するための工学と情報技術の分野を扱っており、この賞は生産管理、サプライチェーン、自動化の3部門それぞれで最も評価の高い論文に贈られるものです。写真1のように任任さんは様々な企業を訪問し、情報収集、共同研究を通じて研究をまとめたものが認められました。



(写真2)任任さん



(写真1)企業との打合せの様子

応用分子化学科 スポーツ大会3年ぶり開催

【応用分子化学科】
中村 勇貴 Yuuki Nakamura

応用分子化学科恒例のスポーツ大会を9月24日(土曜日)に実施しました。代表の中村勇貴さんを中心とした4年生が、事前の準備と当日の運営を分担して、生産工学部体育館にて、綱引き、大縄跳び、ドッジボール、リレーなどの種目を実施しました。学生と教員が共に体を動かして親睦を深めました。



Activities of Students

デザインの知識で 幅広いジャンルの賞を受賞

【創生デザイン学科】
谷 華音 Kanon Tani

幅広いデザインコンペティションに取り組み、第84回新制作展スペースデザイン部、六本木デザイナーズフラッグ・コンテスト2021の2つで応募作品が入選しました。また、創生デザイン学科の卒業研究成果展のポスターデザインコンテストでは、目を引くデザインを意識した結果1位に選ばれ、そのポスターに加え学生の成果物をまとめた冊子の表紙デザインも担当しました。



国際大学生ゲームジャムで 銀賞を獲得！

【数理情報工学科】
艾 嘉豪 Kagou Kai

中国の長春で 2021年11月15日から25日までICSG 2021(国際大学生ゲームジャム)が開催され、日本大学代表として参加していた艾嘉豪(ガイ カゴウ)さんが率いたチームSakura Scoutが銀賞を受賞しました！本大会には艾さんを含めて3年生(当時)が3名参加し、5カ国から集まった90名を超える大学生とゲームの制作力を競いました。



3年ぶりの神輿行列 環境神輿復活の立役者

【環境安全工学科】
杉原 匠海 Takumi Sugihara

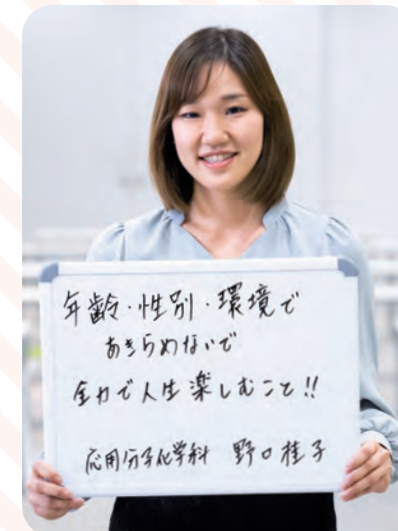
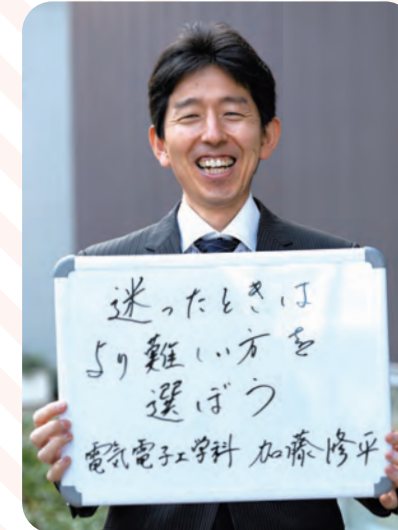
コロナ禍の桜泉祭中止・オンライン化により3年ぶりに大学前の商店街を、神輿行列が賑わいました。カビと埃でくすんだ環境神輿は、杉原さん率いる20名の学生の手で見事蘇り、華やかさを増して、見事5連覇を達成しました。



先生方に聞きました！

卒業生に贈るお祝いの言葉

生産工学部が誇る数多くの先生方から、卒業生へ贈る言葉をいただきました。



機械工学科

PBL授業の競技会について

機械工学科の特徴的な授業としてプロジェクト演習・機械工学実験BのPBL(Project Based Learning)授業があります。学生たちは5～6人で1つのチームを作り、電動カート、レスキューロボット、風力発電機のいずれかを対象に1年間かけて設計・製作します。企画、設計、生産計画、製造、コスト管理など、ものづくりに必要な一連のプロセスを学ぶことができる授業です。2020年度は新型コロナウイルスの影響で、チームでの作業ができなかったため、部品を自宅に郵送し、ロボットアームを製作する課題を実施しましたが、2021年度は対面形式で実施することができました。競技会の様子は機械工学科のホームページで公開しています。よろしければQRコードからご覧ください。2022年度の競技会の様子も公開予定です。

2021年度の
競技会の様子は
こちら



土木工学科

コロナ禍での経験を糧に、学びのさらなる全体・個別最適化に挑む！

●研究室配属を早期化し、 学生・教員間の交流を深めて、関係構築を図る

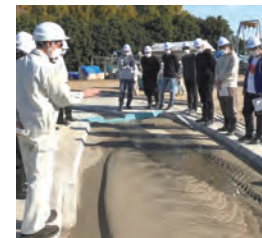
現3年生はコロナ禍で1、2年次を過ごし、学生間・学生教員間の交流機会に多くの制約がありました。3年生担任は、学生たちから交流機会を求める声を受けて、今年度より研究室配属を早期化し、ゼミ単位での活動を活性化することで、学びと絆を深める環境を提供しました。今後は、この環境を活かして、さらなる進学・就職等支援の充実を目指します。

●資格支援講座を各自のペースで学べる オンデマンド型で展開

資格支援講座は、校門技術士会等と連携しつつ、これまで放課後または夏季休暇中に対面形式により開講されてきました。例年、受講希望者は2、3年生を中心に100名近くにのぼり、近年、感染症拡大防止の観点からもオンライン講座としての運用を検討してきました。今年度は、オンライン・オンデマンド型で技術士一次試験、2級土木施工管理を開催し、各自のペースでより主体的に学びやすい環境を整備しています。

●3学年行事であった生産実習現場見学会をゼミごとに実施

生産実習「現場見学会」は、大規模建設プロジェクトの現場を目の当たりにし、本学OB等から土木技術者としてのやりがいを直接学ぶ3学年全体の恒例行事です。しかし、一昨年から感染症拡大防止の観点から開催が見合されてきました。今年度は、研究室配属の早期化に伴い、交流機会を兼ねて、ゼミ単位で現場見学会を開催。ゼミ生の興味や志望に沿った現場を調整し、交流と学びを深めました。



電気電子工学科

令和4年4月より2名の教員が着任されました

電気電子工学科にNTT物性科学基礎研究所から石澤淳教授と名古屋大学工学研究科から飯田和昌教授が着任されました。石澤先生は光通信分野を、飯田先生は機能性材料の研究をされています。着任以降、お二人の先生は講義、学生実験、卒業研究などを通じて学生の指導にあたられています。どうぞよろしくお願いいたします。



飯田和昌先生

飯田研究室
ホームページは
こちら



石澤淳先生

石澤研究室
ホームページは
こちら



建築工学科

第45回国際書画展(書道展)佳作受賞

黒瀬日菜子さんが、第45回国際書画展(書道展)佳作を受賞しました。作品は、国立新美術館ほか全国三会場にて巡回展覧されました。黒瀬さんは、書道双硯会(そうげんかい)に所属し、坂上桐苑(さかがみ・とうえん)先生のもと黒瀬冬翠(とうすい)として活躍されています。今年「教士」に昇格されました。コロナ禍に思い立ちあらためて挑戦し、先生や仲間との和気あいあいとした雰囲気そのまに、書くことを楽しんでいます。



グッドデザイン・ ニューホープ賞受賞・優秀賞受賞

歴史あるグッドデザイン賞の新たな部門として創設され、社会実装を求めない本質的なデザインの議論が可能となる、若者を対象とした賞です。4分野「物・場・情報・仕組みのデザイン」を表彰します。全414作品から、各分野の優秀賞2作品、計8作品が、昨年12月3日に東京ミッドタウンにて最終プレゼンテーションに臨みました。谷口真寛さんの案は、惜しくも最優秀賞を逃しましたが、最終審査でもとてもよい評価を得ました。



学科Instagram開始！

建築工学科は、2022年9月学科広報の一環として、Instagram配信を始めました。
<https://instagram.com/nichidai.seisan.kenchiku?igshid=YmMyMTA2M2Y=>



応用分子化学科

桜泉祭神輿 グランプリで優秀賞

3年ぶりに通常開催された桜泉祭はキャンパス内に観客を入れた二日間の開催でした。天候に恵まれ、たくさんの観客が戻ってきて、とても賑やかな桜泉祭でした。とくに初日の「桜泉神輿」神輿グランプリでは、応用分子化学科のみこし行列が優秀賞に輝きました。応化らしく緻密で精巧な作りに加え、伝統的な造形美も兼ね備えた神輿はこれまで何度も優秀賞に輝いていますが、先輩の素晴らしい伝統を、 blanks を感じさせずに見事に受け継いでくれています。また、一致団結のチームワークの良さと威勢の良い行列を見せてくれ、観客からも大きな拍手が贈られました。



数理情報工学科

人工知能学会誌の特集に解説論文を寄稿

浦上准教授が執筆した複雑知能システムに関する解説論文が「人工知能学会誌」の特集記事として掲載されました。この特集は人工知能に関連する最先端の研究分野について、各分野の第一人者が招待されて寄稿した論文を集めたものです。昨年度に出版された浦上准教授の著作『セルオートマトンによる知能シミュレーション』が評価されて寄稿することになりました。複雑知能システムとは、浦上准教授が提唱する新しい概念で、生命や人間、社会における情報処理をヒントに既存のAI(人工知能)を一新する方法です。



トンビ?先生が数理情報で講義をされました

2022年6月22日(水)の5時限目、日本大学文理学部の出身でプロのeスポーツキャスタとして活躍中のトンビ?先生(福岡智洋氏)が生産工学部で「eスポーツの概要と動向・eスポーツにおける実況の重要性」というタイトルで、日本大学大学院生産工学研究科数理情報工学専攻の特別講義として講義をされました。本講義は対面型とオンラインのハイブリッドで実施し、対面型への参加者は60名、オンラインでの参加者は37名と、生産工学部におけるeスポーツへの関心の高さが伺えた特別講義でした。



マネジメント工学科

令和4年度のマネジメント工学科

令和4年度はWithコロナの一步、アフターコロナに向けた1年で、授業は対面をメインに補助としてオンラインを併用する形で実施しました。オンラインが主であった学生も対面の重要性を感じた1年だったと思います。

この状況下で生産工学部のキャンパスがある習志野市東部地区の京成大久保、実籾地区を盛り上げるために「食べて応援しよう! 大久保・実籾ラーメンスタンプラリー 2022(ラーメンスタンプラリー実行委員会 主催)」が令和4年7月1日から3か月間開催されました。これは習志野市東部地区である京成大久保、実籾地区にあるラーメン屋さんを盛り上げるために企画されたものです。具体的にはスマホでスタンプラリーを行い、参加すると各店の特典が受けられたり、一定数の店舗のスタンプを集めると抽選で景品がもらえるものです。その情報配信に必要なTwitterやホームページ等を、マネジメント工学科、豊谷研究室のゼミの学生が作成し、運営をサポートしました。この活動について、第29回市民まつり「習志野きらっと2022」(令和4年10月9日開催)にて、ラーメンスタンプラリーの表彰式が行われ、豊谷ゼミに実行委員会から感謝状と記念品が授与されました。なお、「習志野きらっと」は、ここ数年中止となっていたが、毎年4万人から5万人が集まる習志野市のお祭りです。

以上、様々なビジネスのサポートをマネジメント工学の視点から取り組んでいます。最新情報はマネジメント工学科ホームページ、Twitter、Instagramでも掲載していますので、そちらもご覧ください。



(写真1) 表彰式の様子、習志野市長、商工会議所会頭、ラーメンスタンプラリーの実行委員長、時茂の正木社長らと、豊谷先生とゼミ長と副ゼミ長



(写真2) 2022年度 豊谷研究室ゼミナール

環境安全工学科

御神輿コンテスト5連覇! 学内外における学科PR活動

学内の活動においても感染対策をとりながら、コロナ禍前の活動が再開してきており、11月29日、30日に開催された桜泉祭もそのひとつです。桜泉祭の恒例のイベントである学科対抗の御神輿コンテストは、COVID-19の影響で中止となっていたが今年度は対面で行われ、以前と同じように大久保商店街を練り歩きました。今年は御神輿の屋根部分を新調し、オリジナルうちわやオリジナル法被も作製するなど着々と準備を進め、今年も見事優勝し5連覇を達成しました。また学生が主体となって活動しているドローンプロジェクトも、コロナ禍では制限されていましたが再始動し、オープンキャンパスなどで活躍しています。

学外の活動として、10月23日に開催された「第27回エコメッセ2022 in ちば」に出展しました。学科で取り組んでいる内容を中心に、水素の製造・利用・将来構想について説明や議論を行いました。高校生や大学生、家族連れなど幅広い層の来場があり、多くの人と意見交換や交流ができました。また、12月7日から9日まで東京ビッグサイトで開催されていた「エコプロ2022」にも学科としてブースを出し、学科の概要、プロジェクト、研究室や研究等の紹介を行いました。会場全体では60,000人を超える来場者があり、学科のブースにも3日間で200名近い方が訪れてくれました。訪問者の中には日大卒業生や他学部の学生もあり、学科の内容や活動をPRする良い機会となりました。

学科における教育・研究活動は学内だけでなく、学外においても積極的にを行っています。これらの学外イベントへの参加の報告などは学科ホームページにて随時更新していますので是非ご覧ください。



(写真1) お神輿コンテスト2022



(写真2) エコメッセ2022 in 千葉

日本大学生産工学部校友会の紹介

生産工学部の発足は現在の理工学部にて工業経営学科が新設された昭和27年にさかのぼります。その後、昭和43年に現在の生産工学部に名称が変更になりました。生産工学部校友会も生産工学部とともに歩んできました。校友会の始まりは昭和34年の教員と校友の親睦会になります。翌年の昭和35年に「桜門工経会」の名称で校友会が発足し、昭和47年に現在の生産工学部校友会に名称が変更になりました。日本大学全体の卒業生は123万人を数えます。生産工学部校友会の卒業生も約9万人になり、様々な分野で、また、世界で活躍しています。大学を卒業しても校友会が卒業生と大学を強い「絆」で結んでいます。ここ数年、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大により開催できていませんが、学園祭の時期には「母校を訪ねる会」を校友会と生産工学部が共同で開催しており、卒業後10年毎の卒業生を招待し、旧知の仲間との再会を楽しんで貰うのと同時に後輩たちの活躍にエールを送って頂いています。

日本大学生産工学部では校友会誌として、「桜生工」を年に1回発行しており、毎回、様々な特集とともに校友会代議員総会の様子や各学科の近況、学内行事などについて掲載しています。毎年、4年生を中心に配布しており、校友会の活動を知ってもらうようにしています。最新の52号では生産工学部創設70周年にちなみ、校友会の今までの歩みを集めました。

その他にも様々な活動を行っております。そのいくつかを紹介いたします。生産工学部には多くのサークルがあり、その活動資金の一部を校友会が補助しています。また、各学科にも活動資金の支援を行っており、その活動費の一部は在学生や大学院生の学会発表などの補助に使われています。その他、鳥人間コンテストや風力発電コンペ、キャンパスガイド表紙の審査および記念品、新入生や優秀卒業生への記念品など、数多くの支援をしています。生産実習の受け入れ企業や就職活動にも校友会が一役を担っています。数ある支援の中で一番大きな支援は寄付金による学部支援になるのではないのでしょうか。今年度も昨年に引き続き新型コロナ拡大の影響による経済的な打撃は学生の家庭に例外ではありません。その対策の一環として、本年度は一昨年の2000万円の寄付に引き続き、生産工学部創設70周年寄付金として2000万円を寄付頂きました。現在までに生産工学部校友会からの寄付金は生産工学部奨学金基金を含めて合計1億7000万円になります。

このように、生産工学部と校友会は車輪の両輪のごとく協力しながら、生産工学部の学生を支援しています。

日本大学生産工学部校友会ではホームページも開設しているので、是非、時間のあるときにご覧ください。また、校友会事務局は津田沼校舎2号館食堂に隣接していますので、お時間のある時にお気軽に尋ねて下さい。

生産工学部校友会ホームページ:<http://seisan.nihon-u-koyukai.com/>

皆さんも、卒業したら校友会活動に参加し、後輩や母校のため、そして、自身の活動範囲を広げてはみませんか。

創生デザイン学科

2年生有志が実習マルシェでワークショップ

令和4年10月29日に京成実習駅前で開催されました『実習マルシェ happy Halloween』において、2年生有志で構成するファブトラ活用委員会が地域住民の皆様を対象としたワークショップを実施しました。ワークショップは、移動式デジタル工房:通称ファブトラに搭載した3Dプリンターとデジタルミシンを用いて、ワークショップ参加者に描いていただいたイラストをその場で3次元化し、キーホルダーやワッペンを作成するもので、小学生を中心に、大変な盛況となりました。参加者は2次元図面が3次元化する過程を、学生達は主催者様との共働の下、ワークショップの企画・運営を通じた街づくりの実践を体感することができました。



参加者
稲垣友亮さん、今田千代子さん、田所采佳さん、田村百香さん、長嶋陽希さん、牧野佳奈さん、増田千穂さん、吉岡柚木さん(以上創生デザイン学科2年)、中澤公伯教授、木下哲人専任講師



教養・基礎科学系

「生産工学とSDGs」特別講演fromコンゴ

今年度より1年次の教養基盤科目に設置された「生産工学とSDGs」は、俯瞰的かつ多角的に考え説明できる力を身につけることを目標としています。今年度第3クォーターに1クラス、第4クォーターに2クラス設置された本科目は、社会の要求・要望の社会基準の一つである「国連採択の持続可能な開発目標(SDGs)」を通じた世界を体感することが大きな特徴です。

今回SDGsの理解を深めるための特別講演がオンライン形式(Zoom)にて行われました。講師はコンゴやウガンダなどでSDGsにつながる活動をされている認定NPO法人テラ・ルネサンス代表の小川真吾氏にお務めいただきました。第4クォーターは国内からでしたが、第3クォーターは現地コンゴからご講演いただきました。日本ではあまり報道されていないコンゴ紛争の内情を解説いただいたのちに、市民が貧困から解放されるための持続的な取り組みへの同法人のサポート活動等についてわかりやすく講演いただきました。受講生はメモをとりながら興味深く聞き入り、最後の質問時間にはなかなか鋭い質問も出され、それに対して小川氏からも熱のこもった回答をいただきました。俯瞰的・多角的視野を獲得するうえでとても有意義な講演となったようでした。



小川氏に熱心に質問する学生の様子

「教養課題研究」特別講演from中国吉林省

教養基盤科目には、講義科目とは異なり、学生自ら研究課題を選出し、成果までまとめる「教養課題研究」という少人数で行われる科目が配置されています。

今回、「学生の多角的な視点」を養うことを目的に、中国吉林省にある延辺大学で教鞭をとっている李松林准教授に、現地中国からオンラインライブで「東アジアの地域研究」をテーマに御講演いただきました。李氏は、日本で経済学の学位を取得し、その後大手の日本企業に勤めるなど、非常に日本にゆかりのある方で、今回、生産工学部の学生にも配慮していただき、とても分かりやすく、COVID-19によって低迷したグローバル経済における中国経済や直面しているリスク要因、またその現状と動向について、両国の視点から解説していただきました。講演後の質疑応答の時間では、教養課題研究の受講生が自ら設定した研究課題について(デジタルチャイナ、「一帯一路」と少数民族の関連性、地域格差等)積極的に質問を行い、講師と延辺大学の学生との間で活発な議論が行われました。また今回、青島大学(中国)、江原大学(韓国)、釜慶大学(韓国)の先生方にも参加していただき、国際交流を企図した(直接交流も含めた)新科目の萌芽を大いに感じさせる講演となりました。



熱心に受講する学生の様子



創立70周年寄付金目録及び感謝状贈呈式



令和3年度 代議員総会



第15回風力発電コンペ「WINCOM 2022」



桜生工vol.52表紙